

第Ⅷ分野（分野横断）活動状況報告

1. 第Ⅷ分野連携の背景（2021/12/21 委員会の資料 21-2-11 より）

- ・ 土木学会の中長期計画である「JSCE2015」の重点課題の一つとして「学会内活動の有機的結合とその評価」が設定された。
- ・ この課題の中で「研究分野が専門細分化され総合工学としての土木工学が見えにくくなってきている」ことから「研究委員会の統合化や分野横断的活動の積極的な推進」に取り組むことになった。
- ・ 土木学会の調査研究部門に新たに「分野横断型」の分野として第Ⅷ分野を設立し、地震工学委員会、地下空間研究委員会、地球環境委員会、原子力土木委員会が新分野にそのまま移動することになった。

2. 原子力土木委員会としての第Ⅷ分野の活用方針（2023/12/21 委員会資料より）

- (1) 第Ⅷ分野として何を目的に活動していくかが重要。
- (2) 目的を明確化した上で、第Ⅷ分野連絡会として主体的に進めていく。
- (3) 原子力土木委員会としての考え
 - ・ 共通の課題に対し、小委員会などを立ち上げる際、お互いの委員会から参加者を募り、協働で運営・管理を進めていくのが良いのではないか。
 - ・ お互いの委員会での実施内容の相互理解を深めるため、双方の委員会や小委員会にオブザーバーとして参加するのが良いのではないか。
 - ・ 具体的な共通課題として、防災または設計超過事象における不確実さを有する事象による影響の表し方を軸に、第Ⅷ分野の連携を検討してみてはどうか。
(例：一般防災と原子力防災の実情や課題・解決策など)

3. 第Ⅷ分野連携の現状

(1) 活動内容

2024 年 12 月 20 日の前回委員会での報告以降の活動内容は以下の通り。

- ① 第Ⅷ分野連絡会の定期開催（2024 年 12 月 23 日、2025 年 6 月 20 日）
- ② 第 2 回キックオフシンポジウムの開催（2025 年 3 月 27 日）

(2) 第Ⅷ分野連絡会の定期開催

第Ⅷ分野が設立して以来、定期的に第Ⅷ分野連絡会を開催している。

出席者は各委員会の幹事長、幹事ら。主な議題は、各委員会での状況報告や意見交換であるが、2024 年 12 月 23 日と 2025 年 6 月 20 日の連絡会では、第 2 回キックオフシンポジウムの事前準備、事後フォローアップをメインに議論した。

(3) 第2回キックオフシンポジウムの開催

2025年3月27日に、第Ⅷ分野が意図する分野横断研究や人的交流をさらに推し進めることを目的として、一般公開型の第2回キックオフシンポジウムをオンライン開催した（申込者80名、参加者65名）。本シンポジウムは2022年3月に開催された第1回キックオフシンポジウムの後継となるもの。出席者は第Ⅷ分野拡大連絡会の参加メンバーを中心とし、各委員会の活動内容の報告と、連携に関する議論を実施した。

シンポジウムでは、事前に開催した情報交換会（昨年10月開催）で挙げられたキーワード（リスクマネジメント、各分野のリスク情報の共有、大深度地下、インフラ施設、CCS、気候変動、熱中症対策）に関する内容の説明がなされるとともに、連携に関する議論が行われた。その結果、以下のようなご意見を頂いた。

- ・ 委員会間で様々な連携が行われていることを知る良い機会であった。
- ・ 分野連携を公開で実施したのは初の試みであり今後も継続してほしい。
- ・ シンポジウム等で活動内容をオープンな形式で外部発信することは、第Ⅷ分野の活動を土木学会のみならず対外的にアピールする場となるため、今後とも継続かつ積極的に取り組むべきである。
- ・ 一方、連携に関する認知度をより高めるべきである。
- ・ 連携することが目的とならず、委員会間の共通課題やキーワードを軸にした取り組みをしていくべきである。
- ・ テーマを絞ることで、より興味深いシンポジウムになるのではないか。

4. 今後に向けて

今回の活動で得られたご意見と課題を元に、今後も第Ⅷ分野に関する活動を関係委員会と協力して推進していくことが重要であると考えている。具体的には、

- 1) 継続的な委員会間の相互理解と活動内容の共有
- 2) 分野連携に関する活動の認知度向上に向けた取り組み
- 3) テーマを絞ったより具体的なテーマや課題に関するシンポジウムの開催などが挙げられる。

今後、連絡会等でより議論を深め、上記の内容に関する具体化に向けた取り組みを進めていく。

5. その他

- ・ 地下空間研究委員会の維持管理委員会より、リスクコミュニケーション小委員会での取り組みに関心があり、一度意見交換させてほしいと連絡を頂いている。
 - リスクコミュニケーション小委員会の松村幹事長に相談させていただき、現

在、次回小委員会の一部時間を頂戴して意見交換の段取りを調整中。

- 地下空間研究委員会からどのような点に興味があるのかをお教えいただき、
その上で意見交換することを想定している。

以上

第Ⅷ分野連絡会 議事録

○日時：2025年6月20日（金）16:00～17:00

○場所：オンライン（Zoom）

○参加者（敬称略）：

- ・阿部慶太（日本大学）：地震工学委員会 副幹事長・第Ⅷ分野担当
- ・池尻 健（セントラル技研）：地下空間研究委員会 幹事長
- ・岡 和孝（国立環境研究所）：地球環境委員会 幹事長
- ・富尾祥一（構造計画研究所）：原子力土木委員会 委員兼幹事

今回の連絡会の主な内容を以下にまとめる。

1. 新規メンバーの自己紹介

- ・新規メンバーの自己紹介が行われた。

2. 第2回キックオフシンポジウムなどの振り返り

- ・阿部委員より、地震工学委員会の資料に基づき、昨年度の活動内容を中心に今までの活動内容について報告が行われた。
- ・池尻委員、富尾委員より、リスクコミュニケーションをテーマに地下空間研究委員会と原子力土木委員会が連携を模索しているとの報告があった。この取り組みについて、今後の進捗を連絡会で共有するのが良いのではないかという意見があった。
- ・今後、全ての分野ではなく、ある分野に焦点を絞った活動を展開していくことが良いのではないかという意見があった。
- ・上記に関連して、具体的な分野として、「リスク」、「液状化」、「地下の利活用」、「複合災害」が挙げられた。
- ・「複合災害」に関するテーマの事例として、「地震発生に伴い、電気が使えなくなり熱中症に波及する」、「地震発生後に津波が襲来する」ことが挙げられた。
- ・これらの分野に対して、2 委員会以上で連携を模索し、進捗を連絡会で共有し、拡大連絡会で具体的にテーマを決めていくことが良いのではないかという意見があった。
- ・直近の連携を模索するテーマとして、以下のものが挙げられた。
 - 「リスクコミュニケーション（地下空間研究委員会×原子力土木委員会）」
 - 「液状化（地震工学委員会×原子力土木委員会）」
- ・地球環境委員会は、ダイバーシティーを有する分野を取り扱っており、分野が広範囲であるため、特定の分野のテーマが明確になった段階で連携を模索す

るのが良いのではないかという意見があった。

- 池尻委員より、「夏休み親子現場見学会」のイベントについて紹介があった。このように、各委員会でのイベントを共有することが良いのではないかという意見があった。

3. 今後の活動について

- 連携やその目的設定は、一気に広く実施しようとするとう発散してしまうので、まずはコンパクトに進めていくことが重要であるという意見が挙げられた。
- 2 委員会以上で連携を模索し、進捗を連絡会で共有しながら、拡大連絡会で具体的にテーマを決めていくことを目標に活動する。まずは、下記のテーマに対する連携の模索、次回以降の連絡会での進捗報告を目標に活動する。
 - 「リスクコミュニケーション（地下空間研究委員会×原子力土木委員会）」
 - 「液状化（地震工学委員会×原子力土木委員会）」
- 各委員会のイベント（見学会、講習会など）について、連絡会やメールなどで適宜共有する。

4. 次回予定について

- 次回は「通常の連絡会」の形式で「地下空間研究委員会」が担当し、9～10月開催を目標に日程を調整して開催する。

以上

(文責：阿部慶太)